



2012

7

No.480



理念

130年の歴史と設立の経緯を忘れず全人医療を提供します

基本方針

患者中心医療

患者の人権と
意思を尊重します

患者診療3本柱

がん・救急・
予防医療を中心に
医療機能の
充実を図ります

完結型医療

地域の医療機関
との連携を行い
安心できる医療の
展開を行います

社会貢献

災害医療派遣・
医療情報公開・
医療ボランティアの
活動を行います

医療人育成

医療に携わる
喜びが持てる
医療人の育成を
行います

集中ケア認定看護師・救急看護認定看護師 誕生！

今年も新たに2名の認定看護師が誕生しました。現在当院には14名の認定看護師が在籍しております。今回合格しました集中ケア認定看護師と救急看護認定看護師をご紹介します。



集中ケア認定看護師の役割は、

生命の危機状態にある患者様に対し病態変化の予測と重症化の回避の援助を行い、生活者の視点のアセスメントと早期回復への支援を

実践することや、看護の質の向上のための実践モデルとしての役割、チーム医療のための多職種との調整があります。

救急患者の増加、地域がん診療連携拠点病院のため手術件数の増加に伴い、重症患者の集中治療室への入室も増加しています。また、高齢社会の影響で、集中治療室入室患者の72%が65歳以上の患者様です。高齢の患者様は身体的特徴から、来院時、すでに危機状態となっていることが多く、回復にも時間を要す場合が多いと言えます。そのため、看護師には状態の変化に気づくことのできる知識と技術が必要とされます。集中ケア認定看護師として、重症化の回避の援助を行うことはもちろん、看護師の質の向上に努め、患者様の早期回復、安全・安楽な医療の提供を目標に日々努力してまいりたいと思います。

集中治療室へ入室される患者様の疾患は多岐にわたるうえ、医療の高度化から、私自身学ぶべきことはまだまだたくさんありますが、自己研鑽に努め、多職種との連携を行いチーム医療の一員としての役割を果たしてまいりたいと思いますので、よろしくお願いたします。

集中ケア認定看護師 財部 しのぶ



日本における救急患者数は増加の一途をたどっており、当院においても昨年の救急外来総受診者数が5496名と過去最高となっています。その一方で、救急医療を担う医師は不足しており、外科を中心とした各科持ち回り体制で実施している現状にあります。

そのような中、救急看護師の役割として、急性期だけではなく慢性期や様々な症状を訴える患者の重症度・緊急度を瞬時にアセスメントするトリアージ、ケアを実践する能力が求められています。本年4月からはトリアージ加算が開始され、当院でもその準備段階にあります。トリアージ体制の中でキーとなるのが「トリアージナース」と考えています。求められる知識・技術は非常に高く、責任も重大といえますが看護の専門性が高く評価されてきた結果だともいえます。このトリアージ体制の整備の中で、認定看護師の役割である「実践」「指導」「相談」の三つの役割を発揮していきたいと考えています。今後も自分に厳しく、常に課題を与えながら成長していきたいと思っておりますので宜しくお願い致します。

救急看護認定看護師 杉松 幸太郎

DMAT2 チーム 新たに Dr 1 名増員

2012年7月2日から5日までの4日間、東京都立川市の災害医療センターで行われました日本DMAT 隊員養成研修に参加してまいりました。

DMAT とは、Disaster Medical Assistance Team の略で、大震災及び航空機や列車事故などの災害が発生した際、急性期に活動が開始できる機動性を持った、専門的な研修・訓練を受けた災害派遣医療チームです。負傷者が多数発生する災害現場では、DMAT が消防や警察、自衛隊などの関係機関と連携しながら救助活動と並行して医療活動を行います。大規模な災害となれば、多くの負傷者に効率良く対応するため、どの負傷者を優先して治療するか、どの病院に搬送すべきかを判断する‘トリアージ’も行います。

今回の訓練でも、トリアージは重要な活動としてシミュレーションが行われました。現場での治療は通常の医療機関で行っている治療と違い、根治的治療ではなく、最大多数の傷病者を安全に病院に到着させることを可能にすることが目的となります。そ

の後の、広域搬送のための医療活動も、DMAT の重要な活動の一つです。輸送機を使った搬送は高度も高く、気圧も低いことから特に処置が必要になることもあり、医療環境がほとんど整っていない機内で、急変にも迅速に対応していく必要があります。また瓦礫（がれき）の下の医療という場面も災害医療の特徴の一つです。

この DMAT 隊員養成には全国各地から医師、看護師、その他の医療従事者が参加していました。先の震災の後ということもあって、皆さん熱い志で受講されており、とても濃厚な4日間でした。今後も継続研修や訓練に参加し、今回の研修で学んだことを維持し、有事に備えたいと思います。

最後に、研修に参加するにあたって装備や機材の準備を含め、ご協力下さった皆様はこの場を借りてお礼申し上げます。ありがとうございました。



健康保険人吉総合病院

消化器内科医員 西村 淳

病院建替え工事 進捗レポート

No. 4
情報企画課



基礎躯体工事① (H24.6/7)



基礎躯体工事② (6/25)



基礎躯体工事③ (7/9)



架設構台が組み、クレーンが移動 (7/17)



* 配管・設備工事 *

左写真は地下部分の給排水等配管の写真です。地下にはこんなにたくさんの配管が通っているのですね。

基礎躯体工事も終盤にさしかかり、クレーンが通る架設構台も組み、クレーンが中央へと移動しました（左下写真）。まずは本館から健康管理センター棟に続く渡り廊下部分から鉄骨建方が始まります。

《おまけ》

建設現場で緑のカーテンが作られ、野菜が初収穫されました。夏の節電対策として、こんな楽しい（おいしい）エコもいいですね（*^_^*）

※緑のカーテン：つる性植物をネットに絡ませ、カーテンに仕立てたもの。



病棟ぎりぎりのところまで鉄骨が建っていきます。工事音等ご迷惑をお掛けしますが、ご理解の程よろしくお願い致します。

VTE（静脈血栓塞栓症） 学習会



平成24年7月4日（水）、老神会館においてVTE学習会が行われ、院内より65名の参加がありました。循環器科の岡先生より肺塞栓症とその治療について、下川副院長よりVTE概論について、産婦人科の大竹先生より婦人科の予防策の現状についてという内容で、知っておくと大変役に立つ講義内容でした。特に術後起こりやすいといわれているDVT（深部静脈血栓症）、主としてDVTが原因で起こるPTE（肺動脈血栓塞栓症）を防ぐため、当院でも昨年末よりVTE予防チーム（チームヘパリン）が発足し、ガイドラインを元に、術前からのリスク評価、対策を中心にマニュアル作成を行いました。今回は、チームとして、VTE予防の知識を院内スタッフにさらに深めていただくことを目的に学習会を企画しました。予想以上の参加者の多さに、VTE予防への関心の高さを改めて感じました。今後も現場からの意見を取り入れた学習会の企画、マニュアル改訂を行って参りますので、ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

VTE 予防チーム 5階東病棟 今田 泉

産婦人科臨床実習

私は、大学病院では学ぶことのできない地域医療の最前線を学びたいと考え、熊本大学産婦人科の特別臨床実習の中で、6月26日から28日まで3日間の臨床実習を人吉総合病院で行うことを希望いたしました。

実習では外来見学、妊婦健診、手術など基本的なことから学生にとって難しい最新医療のことまで丁寧に教えていただきました。教科書で勉強しても理解が不十分であったところも、実際に多くの患者さんの診察を見学し、理解を深めることができました。手術見学では臨床解剖学、基本的な外科手技を術中に一つ一つ教えてくださいました。

夜間では子癇をおこした妊娠高血圧症候群合併の妊婦さんが帝王切開となった症例も経験させていただきました。医師と看護師の方々が協力、迅速に鑑別疾患を除外し、手術を施行し赤ちゃんを取り出した瞬間はとても感動的でした。術後も母体、新生児の状況をチェックしながらすぐに次の手術の準備をされているスタッフの姿をみて、市内の病院と違い少人数のスタッフで医療を行う上でのチーム医療の大切さを痛感いたしました。また、将来自分も先生方のように瞬時に一人でも対応できるようになるためには、これからもっと勉強しないといけないと思いました。

今回の実習期間に病院近くの堤温泉に行く機会もいただき、さらに老神神社での懇親会ではおいしいお寿司に加えて、生涯で初めての焼酎も頂くことができました。最後に大変お忙しい中、学生に懇切丁寧に御教授くださいました大竹先生、瀬戸先生をはじめ、暖かくむかえて下さったスタッフの方々には大変お世話になりました。心より御礼申し上げます。

熊本大学医学部6年 平松 晶子

小児科病棟 セタ祭り

7月6日（金）2階小児科病棟プレイルームでセタ祭りを行いました。セタ祭りでは、親子触れ合い手遊び、歌（たなばたさま・手をたたきましょう）絵本（だるまさんがぎゅうってだいすき）をしました。ピアノに合わせて体を揺らす患児、絵本の読み聞かせの際には、指をさし声を発しながら笑顔をみせてくれる患児もあり、楽しい時間を提供できたように感じました。今後も入院生活を忘れて楽しめる環境を作っていきたいと思います。

保育士 吉田 晴美



第1回健康保険人吉総合病院“中間基幹職”懇話会 開催

平成24年7月9日(月)、老神社会館において標記懇話会を開催しました。今回は、医師以外・主任以上で46名の出席がありました。下川副院長から挨拶があり、作元事務局長からの当院のビジョンを再認識するための中長期計画と建て替えについての説明、告吉看護局長から職員数の過半数を占める看護局の成すべきミッションや中間基幹職に期待する事項についてのコメントがあり、そのあと多職種(6グループ)ディスカッションを行いました。中間基幹職は中間経営職とも言われ重要な役割であることを認識することが求められています。また、診療についてはTeam医療が盛んに行われています。多職種の横の連携強化のためにも有効な懇話会にしていきたいと考えています。組織力強化のためには情報伝達も非常に重要です。同じ方向を

向いている意志の力(ベクトル)を各部門に持ち帰りスタッフへの意思伝達やその他の行動に役立つことを願っています。

今回勤務の都合等で出席できなかった方や重要なポジションの役割を担っている方、意欲を持って職務についている方などにも出席を求め、今後も変化しながら懇話会を開催していこうと思っています。どうぞよろしくお願い申し上げます。

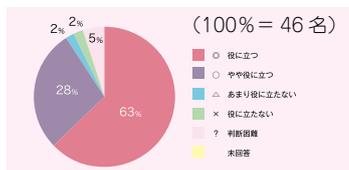


多職種グループディスカッションの様子

庶務課長 西山 三智

懇話会終了後のアンケート調査を行いました。一部ですが結果を紹介します。

1. 本日の懇話会は、今後の組織づくりに役立つと思いますか？



2. 1の質問で 役に立つ・役に立たない どのようなところに判断したかを具体的にお書きください。

・懇話会に参加したことで組織全体を強化することの大切さも理解できた

- ・中長期計画の説明など非常に有意義であり現状がよくわかった
- ・可視化できた
- ・病院のビジョンに係長・主任まで理解できたのでスタッフの指導に生かせる
- ・収益・損益を知ることができ勉強になった
- ・病床利用率や平均在院日数、パスとの兼ね合いも含めて意識づけになった
- ・自分の立場を認識するのに役に立った
- ・病院の現状や方向性を聞いたことにより他職種のスタッフとも同じ情報を持ち同じ方向に向かって自分の役割を果たそうとすることができ
- ・組織の一員として自覚が出る(今までそのような機会があってもあまり自覚が持てなかった)
- ・多部門・多職種の横並びの意見交換はお互いを理解しよい方向に向かうと思う

第2回 心血管疾患医療連携カンファレンス開催

平成24年6月20日19時より東西コミュニティーセンターにて第2回心血管疾患医療連携カンファレンスが開催されました。今回は、医師、看護師、薬剤師、訪問看護師等、前回よりも多い53名の参加がありました。

前回は急性心筋梗塞の現状・心臓リハビリ・急性心筋梗塞地域連携パス(以下連携パス)の紹介と運動に焦点をあてた勉強・意見交換会でしたが、今回は「連携パスの運用状況」と、当院循環器科岡先生より「心不全の薬物療法」、当院薬剤師福島部長より「アドヒアランス向上のための連携」と薬に焦点を当てた勉強会の開催となりました。

心不全薬物療法では治療薬や治療方法についての説明、意見交換が行われました。これらの話から薬物のメリット・デメリットが把握でき、服薬の重要性が改めて理解できました。また、「アドヒアランス向上のための連携」ということで、入院中の患者の在宅服薬管理状況等の調査にて様々な問題点(調剤日・調剤薬局が不明、残薬が合わない、家族間で薬が混ざってしまっている等)が抽出されたことで、それを解決していくにはどうしたらよいか考えるきっかけとなったかと思えます。このような現状把握を行うことで適切な指導ができ、アドヒアランスの向上へとつながっていくこと、また、それを支援するためには医療機関、調剤薬局等地域全体で患者へ統一した関わりを持つていかなければならないということを改めて感じました。

心血管疾患は、治療が終わればそこで終了というわけではなく、日常生活に戻った後も再発予防のための運動・服薬・食事の管理の継続、禁煙等行っていくことが大切です。患者に関わる家族や多職種の医療スタッフの関わり・連携は特に重要となってきます。

今後再発予防のための様々な分野について勉強会を開催し、地域連携を密に行いながら患者支援が行えればと思います。そのツールとして、地域の先生方にご協力いただいております連携パスについても患者様や医療機関の意見を伺い、患者主体としてわかりやすく改良していきたいと考えています。



医療福祉連携室 金栗 由佳

院内接遇研修会

7月10・11日 老神社会館において、株式会社 翔葉 コンサルティング課より安谷幸治先生を講師にお迎えし、院内接遇研修が行われました。

テーマが「接遇の基本」ということで、あいさつ、身だしなみ、敬語や電話応対など様々なお話を頂き、今まで自分が行ってきた接遇を振り返る良い機会となりました。そして、振り返ってみると、まだまだ至らない点が多くあることを痛感しました。外来という様々な患者様と接する機会が多い場において、第一印象は特に大事にしなければいけないと思います。笑顔を心がけ、身なりは勿論、言動、所作などできることから改善し、気をつけていきたいと思いました。中でも、電話での応対は声の繋がりがだけになるので、より明るく、丁寧な応対をし、電話をして良かったと思っていただけるように努めます。

騙し絵での見え方が人によって違うように、相手が受け取る印象の受け取り方はそれぞれ違う。このことから、相手の気持ちになって一人ひとりに合わせた対応を考え、実行していくことが大切なのだと感じました。今回の研修で感じた事、学んだ事を今後活かし、より良い接遇を行ってまいります。

外来医療クラーク 皆越 ともみ

私は今、当院で医療クラークとして外来で働いています。医療クラークは、医師と患者さんの橋渡しの役割を担っています。そのため患者さんと接することが多く、電話応対も多いので、今回の研修はとても勉強になりました。

主に、挨拶の基本、服装・身だしなみ、言葉遣い、電話応対について学びましたが、その中で一番勉強になったのが電話応対です。電話応対は、2〜3コールまで、保留音は30秒まで、無言の時間を作らないなどのルールがあるとのことでした。講義を受けながら、今まで自分が電話応対でやってきたことを思い返してみると、相手に失礼なことをやってしまったと申し訳なく思い、これからは気をつけようと思いました。

患者さんに「人吉総合病院に行っても良かった」と思ってもらえるように、心をこめて、接遇研修で学んだことを生かして患者さんに接していきたいと思っています。

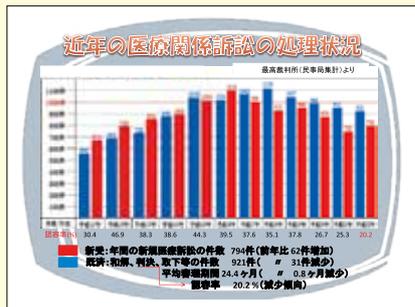
外来医療クラーク 宮原 麻里

平成 24 年度 医療安全研修会

～患者様その家族の方々に満足される医療、安心と信頼される医療機関になるために～

医療安全では年に2回の全職員を対象とした院内研修を行うことが必須になっており、6/18～20に今年度1回目の院内医療安全研修会を「近年の医療事故訴訟の傾向と対策について」という内容で開催しました。全職員ができるだけ多く参加できるように同じ内容で3日間行った成果と、誰も巻き込まれたくないけど、医療訴訟って?と関心の高い内容でしたので多くの職員の参加があり、全職員の約9割の参加を得る事ができました。

最高裁判所から発表されているデータを用いて、平成11年～平成22年までの年間の新規医療訴訟の件数(棒グラフ:赤)、年間の既済(和解・判決・取下等の合計)件数(棒グラフ:青)、



判決件数の中で容認率の推移を示し、近年の医療関係訴訟の処理状況を解説しました。

最近では新規訴訟件数、既済件数共に減少傾向であること、判

決中の容認率(申し立てた方の言い分が一部でも認められた割合)も平成15年の44.3%をピークに平成22年は20.2%に減少しています。しかし、平均審理期間は24.4ヶ月あり、やはり既済になるまでには2年という月日が費やされています。

このように時間的・精神的そして経済的に負担がかかる医療訴訟に発展させない為に、悪しき結果となってしまう時は速やかに“隠さず、逃げず、ごまかさず”に患者様とその家族の方々と向き合い対話をする事、一度崩れた患者様家族の方との信頼関係の再構築に尽力すべきことが全社連グループで使用している“医療有害事象・対応指針”に示してあります。また、日頃からカルテ記載は丁寧に詳しく残しておく必要もあります。

患者様その家族の方々に満足される医療、安心と信頼される医療機関となるために、そして、末永く信頼される医療機関で在り続けるために私達は皆さまに真摯に向き合っていきたいと思いますと研修会で心ひとつにしました。

医療安全管理室

総括リスクマネージャー 永井 香代子

看護局 新人研修 メンタルヘルス研修

6月13日に臨床心理士畑田さんよりメンタルヘルスの研修が行われました。私は4月に入社して3ヶ月が経ちます。今回の研修はみんなと共感でき前向きにがんばろうと思いました。「看護師はストレスが多い職業の一つ」というお話では、仕事はもちろん、病院・スタッフ・環境に慣れるため毎日覚えることがたくさんで、常に不安で混乱状態となる時に笑顔さえも忘れていたと思います。

研修の中でもあった「新人看護師の仕事への心理的反応」で3ヶ月の今は、何も分からずゆとりもない。仕事への気持ちが揺れ動くとなりました。本当にそうだなあと感じました。でもそんな時の研修だったので、反省会ではみんなの思いや意見を聞いて、自分だけではない、みんながそれぞれに同じ思いをしているのだと知り、改めてがんばろうと思いました。「不安は消えるものではありません。不安を受け止める覚悟を持ち、その不安と表裏一体になっている自分の希望に素直に耳を傾けて、それを目標に地道に取り組んでいく」と最後に話して下さった畑田さんの言葉を胸に、これからもがんばっていきたいと思います。

また、今回のメンタルヘルス研修を受けて、畑田さんの優しく、ゆっくりとした口調に私も見習って、患者様と接していきたいと思いました。

そして、私にがんばる有機を持たせてくれた研修となりました。本当にありがとうございました。

緩和ケア病棟看護師 四元 亜紀

女性 Dr つくしいばらの会

7月10日の19時から「つくしいばらの会」が開催され、参加させて頂きました。

「つくしいばらの会」とは、人吉総合病院に勤務する女性医師の会で、ふだんは中々お話ししたり集まったりする機会がない私たちのために、不定期で開催されているお食事会だそうです。今回は、麻酔科の西村有香先生を会長に、研修医の2名の先生を含めて、全部で6名の参加でした。どの先生方もお忙しく活躍されているため、その日にならないと仕事が無事終わるかどうかもわからない状態でしたが、何とか全員集まることができ、お店の終わる時間まであっという間の楽しいひとときでした。

私は7月から人吉総合病院に赴任したばかりで、まだ人吉のことも病院のこともほとんど分からない状態でしたが、初めての食事会がこの会で、連日のように降り続ける集中豪雨に見舞われることもなく、おいしいご飯と楽しい会話にとっても楽しい時間が過ごせました。その会話の中で印象的だったのは、方言の話です。6名の先生方の出身は様々で熊本の先生が2名、後はみんな県外のご出身です。人吉の言葉は、熊本の言葉とも少し違うらしく、分からない言葉もあるそうで、面白いなあと感じました。私も実家は鹿児島ですが、高校を卒業して以来、県外にいるため、自分自身の言葉はどちらかという標準語になっていますが、たまに鹿児島弁を聞くと、とても懐かしいなあと感じます。人吉の言葉や文化は意外に(意外でもないのかもしれませんが)鹿児島に近いらしく、そういえば鹿児島でしか見かけないスーパーや本屋さんもある！と、とても親近感がわいて嬉しくなりました。

まだまだ分からないことが多く、ご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、たくさんの方と交流させて頂いて楽しく元気に頑張りたいと思いますので、どうぞよろしくお願ひ致します。

画像診断センター医員 仙波 明子



笑って健康促進!

第78回 翔幻会開催!

平成二十四年七月開催分の句をご紹介します。どうぞご鑑賞下さい。

川柳句会「翔」平成二十四年七月分

- 地方紙に包んだ友の愛届く 章子
- 紫陽花の雨にワルツのドレス着て 章子
- おすましできたデパートの包装紙 章子
- おばあちやま薄化粧をしておきれいよ 章子
- 嫁ぐ娘のロールキャベツがまた煮える 章子
- 扇風機しぜんの風になわなない 地内レイ
- 寝そべって激しい雨に肩すくめ 地内レイ
- 巨人戦ジョッキ片手に泡飛ばし 保義
- 額ある眼鏡探して目をほそめ 保義
- むしむしすねまらないうちつまみ食い 保義
- 長雨に樹木うんざり陽がほしい 保義
- お裾分けあちら様から倍返し 佐津子
- 手には針耳はラジオで布を縫う 佐津子
- 節電に出番まつてる扇風機 カツ子
- 痛む肩そつとまでやる老い二人 カツ子
- 食卓はじゃがいも煮つけキウリもみ カツ子

次回は平成二十四年八月二日(木) 十四時から 予防医療センター二階の図書コーナーで開催致します。自由にご参加下さい。投稿のみの参加もできます。院内設置の投稿箱にご投稿下さい。

新 任 紹 介



せんば あきこ 仙波 明子 (画像診断センター・医員) 最終卒業校：広島大学 趣味：旅行、温泉めぐり

モットー：日々進歩、positive thinking! 長所：あまり人見知りしないこと 自分のコマーシャル：早く人吉に慣れて、楽しく仕事を頑張りたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。



つるた みな 鶴田 美菜 (臨床研修医 [協力型] 地域医療研修) 最終卒業校：熊本大学医学部 趣味：ソフトテニス、食べ歩き

特技：早起き、早食い モットー：やるときゃやる! 自分の性格：自分にも他人にも甘いです 自分のコマーシャル：充実した1か月間を過ごせるよう、頑張ります! 短期間ですが、皆様ご指導の程宜しくお願い致します。



みぞぐち あいり 溝口 愛理 (外来・看護師) 最終卒業校：神村学園高等部 衛生看護専攻科 趣味：バレーボール

嬉しかったこと：長男に「ママと結婚する」と言ってもらえたことです 自分の性格：緊張しますが、本当は明るい性格だと思います 自分のコマーシャル：知識で劣る部分があると思いますが、頑張ります。宜しくお願いします。

5月の勉強会報告

6月14日(木) 第58回乳腺カンファレンス

- 1. 「乳腺マンモグラフィ読影の基礎」 人吉総合病院 西迫正悟 臨床放射線技師
- 2. 「肺異常陰影の経過観察中に発見された両側乳がんの一例」 人吉総合病院 外科 小澄敬祐 先生

6月20日(水) 第2回心血管疾患医療連携カンファレンス

- 1. 「心疾患地域連携クリティカルパス運用状況」 人吉総合病院 医療福祉連携室 社会福祉士 金栗由佳
- 2. 「心不全薬物療法について」 人吉総合病院 循環器科 部長 岡秀樹 先生
- 3. 「アドヒアランス向上の為の連携」 人吉総合病院 薬剤部 薬剤部長 福島ゆかり 先生

6月27日(水)救急カンファレンス・救急医療研修会

- 1. 「交通事故症例」 人吉下球磨消防組合 救急救命士 中村潤
- 2. 「心肺蘇生のCAB G2010」 熊本大学医学部附属病院 特任准教授 田山信至 先生

平成24年度 第4回緩和ケア研修会のご案内

がん対策基本法に基づく、がん対策推進基本計画における「すべての医師に対する緩和ケア研修」(厚生労働省通知)に則り、下記の通り緩和ケア研修会を開催致します。参加希望の方は参加申込書(当院ホームページよりダウンロード可)をご記入の上、郵送・FAXまたはE-mailにてお申し込みください。(申込〆切：7月31日)

日程：平成24年9月1日(土)～9月2日(日)

研修会対象者：医師、看護師、薬剤師等 会場：中小企業大学校 人吉校 参加募集人数：30名程度 参加費：無料 お問い合わせ：健康保険人吉総合病院 相談支援センター(畑田、尾方) 電話：0966-22-2191(代表) FAX：0966-22-7879(連携室) 当院ホームページ：http://www.hitoyoshi-hp.jp/ 申込みメールアドレス：kanwa@hitoyoshi-hp.com